

あああ！

Bd: 3-6		NORTH	
DLR: E		♠ A Q J 9 8	
VUL: E/W		♥ J 4	
		♦ Q 7	
		♣ K 10 6 2	
WEST	4 3 2	EAST	10 7 6 5
♥	K 10 6 2	♥	9 7 5 3
♦	10 6	♦	J 9 3
♣	J 9 5 3	♣	A 4
		SOUTH	
		♠ K	
		♥ A Q 8	
		♦ A K 8 5 4 2	
		♣ Q 8 7	

WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Justin	Ino	Jason	Imakura
Pass	1♣	Pass	1♦
Pass	4♣	Pass	3♣
Pass	4♣	Pass	4♦
Pass	5♥(2)	Pass	5NT(3)
Pass	7NT	DBL	All Pass

(1) ♠のRKCB; (2) キーカード2枚、♣Q無し;
(3) ♠はKアスクング

第3ラウンド、イギリス対山田チーム。山田チームのNS(井野・今倉)ペアはオークション中に道に迷ったらしく、Sが7NTをプレイする羽目になった(今倉が3♣ジャンプの後にSNTとビッドしたのは悲劇的始まり)。Eはパートナーからクラブリード要求のダブルをかけたが、リードは何とスベり。息を吹き返した今倉はここで名譽挽回の一手を指す。が、ハートのフィネスは抜け、クラブリターンが来てあえな2ダウン、マイナス300。一方のテーブルではNSが4NTで止まり、イギリスの13IMP勝ちとなった。井野・今倉が6NTで止まっていたら山田チームが11IMPの取り、対戦成績は20-10の負けではなく、16-14の勝ちとなっていた。

タイに12

Bd: 2-9		NORTH	
DLR: N		♠ A84	
VUL: E/W		♥ Q1043	
		♦ A3	
		♣ AJ64	
WEST	KQJ6532	EAST	97
♥	J	♥	K52
♦	2	♦	QJ9854
♣	KQ75	♣	109
		SOUTH	
		10	
		A9876	
		K1076	
		832	

WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Justin	Ino	Jason	Imakura
3♣	4♥	1NT	2♦(♥)
		Pass	All Pass

第2ラウンドのこのディーラーで台湾のタイ(N)が素晴らしい牌を披露してくれた。彼は12トリックを勝った唯一のディクレーラーだった。彼はスペードリードを勝ち、あまり深刻に考える様子もみせず♥Qをプレイ、ローカード、6、JDロップ。次に♦A、♦K、ダイヤモンドをラフ、スペードをラフ、ダイヤモンドを♥10でラフしてから♥9、♥Aと続け、ロークラブをJにに向けた。プラス480。Wは最後のトランプで奇妙なスウィーズにかけた。クラブのアナーを守るためにスピードは1枚しか残せない。従って、Nが最初のクラブを引いた時にクラブのアナーをスプリットしても無駄である。スプリットした場合はダックされるか、Aで勝ってスピードをラフし、ダミーから再びクラブを引かれてやはり♠Jがウィナーとなる。ブラボー。

一方のテーブルのNSは4♣ダブルで稼くより5♥をプレイする方を選んだ。Nはスペードリードを勝って♦A、♦Kをプレイした。Wはしばしばディフェンスの手順を考えた後、♥でこれをラフ。このプレイでディクレーラーは何故か彼が♥Kのダブルtonを持っていると信じ込み、♥Aをたたくても5♥1ダウン。台湾が11IMPを勝ち、その後も4つのスイングを制してインドネシアに21-9と快勝した。

いばらの道

Bd: 2-10		NORTH	
DLR: E		♠ K42	
VUL: Both		♥ Q5	
		♦ 73	
		♣ KQ10653	
WEST	65	EAST	QJ10983
♥	10742	♥	63
♦	98	♦	Q1064
♣	A9842	♣	7
		SOUTH	
		A7	
		AKJ98	
		AKJ52	
		J	

Open Room			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
CH Wu	Lasut	Kuo	Manoppo
2♣(2)	Pass	Pass	4♥
All Pass			
(1) ワウク 2♣ または♥とマイナー5枚以上; (2) プラスまたはコレクト			
Closed Room			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
HT Liu	Lasut	Shi	Manoppo
Pass	3NT	2♣	DBL
Pass	5♣	Pass	4NT(1)
All Pass			
(1) ブラックウッド			

これも台湾がインドネシアに大勝したボードである。オープンルームでは別の「ツウウェイ」2オープンが見事にSの5枚ストに的中。こうしたコンベンションに対してNSはディクレー・ポジションのパスを採用していたが、2スーターをす方法が不足していた。オークションは4♥で終わり、プラス680にとどまった。

クロースドルームではEが2♣オープン。このビッドに邪魔をされるプレイヤーも中にはいるだろうが、Sはものともせずテイクアウト・ダブルをかけた。パートナーの3NTへのジャンプをきいてスラムを感じた彼は、宝庫の中から伝統的4NTを持ち出してAの枚数を確認、6NTをビッドした。スラムはメイクするもの、Nは不注意なプレイヤーで瞬冷や汗をかいたことになった。彼はスペードリードを勝ち、♣Jを出したがこれはホールド。♥Qでハンドに戻って♣Aをノックアウトしたが、スペードリターンを取った時点で、ハンドのプレイが4-2か5-1かをゲスする必要に迫られた。5-1の場合はダイヤモンドのフィネスが必要となる。結局はダイヤモンドをクラブでディスクードして事なきを得たが、Eが2枚目のハンドにフォローした時はさぞ胸をなでおろしたことだろう。自分で自分の首を絞めないためにも、♣Aを追い出す前に♥A、♥Qとプレイをするべきであった。

空飛ぶソロ パートII

Bd: 3-8		NORTH	
DLR: W		♠ AKQJ102	
VUL: None		♥ 74	
		♦ 852	
		♣ 104	
WEST	953	EAST	874
♥	Q9	♥	K8652
♦	10963	♦	Q74
♣	J982	♣	KQ
		SOUTH	
		6	
		AJ103	
		AKJ	
		A7653	

Hanayama	Armstrong	Hirata	Paul H
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Pass	1♣	Pass	2♣
Pass	2♣	Pass	3♦
Pass	4♣	Pass	5♥
Pass	6♣	All Pass	

6♣はレイダウンではない、Nはハートードを受け、JがQに負けた。トランプリターンを勝ってトランプを集め(ダミーからはハートとクラブをディスクード)、ハートのフィネスをしてハンドのクラブをディスクード。ダイヤモンドのフィネスに頼る前にクラブの3-3ブレイクを試す余裕もあった。

Bd: 3-19		NORTH	
DLR: S		♠ K1042	
VUL: E/W		♥ 10975	
		♦ 4	
		♣ K063	
WEST	QJ983	EAST	6
♥	J86	♥	K2
♦	A87	♦	KQJ109532
♣	A10	♣	52
		SOUTH	
		A75	
		AQ43	
		6	
		J9874	

Geller	Shi	Ogihara	HT Liu
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Pass	Pass	Pass	2♣(1)
2♣	3♣	3♦	Pass
All Pass			
(1) プレシジョン			

同じ第3ラウンド、EWでゲームをビッドしたのはゲラー・萩原のみであった。しかしこれは不思議ではない。かなり積極的なビッドをしない限り3NTに到達することは難しすぎる。Sのすらすらしい2♣オープンとNの抑えた3♣レイズが、EWの賭れ舞台を整えた。Nが4♣にジャンプすれば(5♣トライも考えられる)、EWがプラスのスコアを取ることはまったく不可能であった。

3NTはプラス600、一方のテーブルでは5♦1ダウンとなったのでゲラーチームが12IMPの勝ち。

愛はマルチなもの

by Yasuo Otsuka

OUCHI B		NORTH	
DLR: E		♠ AK3	
VUL: N/S		♥ AQJ932	
		♦ J3	
		♣ 64	
WEST	Q6	EAST	752
♥	---	♥	K1098764
♦	852	♦	K7
♣	AKQJ9853	♣	107
		SOUTH	
		J10984	
		5	
		AQ10964	
		2	

TABLE ONE			
Manoppo	Furata	Lasut	Otsuka
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
4♣(2)	4♥	2♦(1)	Pass
All Pass			
(1) マルチ; (2) 取り決めなし			

Nのハンドを持っていれば、Eの2♦がウィーク2♣であると考えても不思議ではない。従ってNが4♥をビッドしてもおかしくない状況ではあった。Sのハンドからは、Eがウィーク2♣のハンドであればパートナーの4♥をバスターが悪い理由がない。Eは♠10をリードして勝ち、♥7にシフト、Wのジョーアウトには全員が笑ったが、コントラクトは1ダウン、マイナス100に抑えられた。

もう一方のテーブルでは……

TABLE TWO			
Kobayashi	Asbi	Takayama	Sacul
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
3♣	3♥	2♦(1)	Pass
Pass	3NT	All Pass	3♣
(1) マルチ			

Eは♠10をリードし、コントラクトはあっという間に4ダウンした。Sの3♣はキュービットでスペードのストッパーをきくビッドだが、そういう考え方もあるのかも知れない。

Sがプレイする6♦はWがクラブをアンダーリードしてハートをラフしない限りメイクする。

マルチ2♦の人気の秘密はここにあるのだろうか。

第4ラウンド実況編

Bd: 1		NORTH	
DLR: N		♠ A105432	
VUL: None		♥ KJ4	
		♦ 6	
		♣ K73	
WEST	K86	EAST	---
♥	1086	♥	AQ3
♦	K9742	♦	AQJ103
♣	82	♣	AJ1054
		SOUTH	
		QJ97	
		9752	
		85	
		Q96	

EWの6♦はあまり問題なし。久富がゲラー、および中国対台湾の対戦で双方ともにビッド&メイクした。

Bd: 4		NORTH	
DLR: W		♠ KQ4	
VUL: Both		♥ KQ10	
		♦ KJ9	
		♣ 963	
WEST	J952	EAST	10863
♥	J54	♥	A62
♦	753	♦	84
♣	QJ5	♣	AK74
		SOUTH	
		A7	
		9873	
		AQ62	
		1082	

ほとんどのテーブルはスペードスコアで終わったが、3ペアがNの3NTを今倉・今野・今野・今野のペアはクラブを攻めて3NTを1ダウンさせ、スイングとなった。

Bd: 5		NORTH	
DLR: N		♠ AQ5	
VUL: N/S		♥ KQ5	
		♦ KJ105	
		♣ 1074	
WEST	1092	EAST	J8
♥	84	♥	AJ109
♦	AQ97	♦	6432
♣	Q532	♣	986
		SOUTH	
		K7643	
		7632	
		8	
		AKJ	

ほとんどのペアが4♣をビッド(ジョンとタイのペアは3NT4メイク)。Sがディクレーとなったテーブルではクラブリードが来て比較的な展開となったが、Nがディクレーとなり、ダミーの♠AKJに向けてクラブをリードされると苦しい。だがダミーで勝ち、ダイヤモンドをリードした段階でクラブのフィネスがある。WはAで勝ってハートラフ、EはAを取ってハートアナーをリターン、Nが勝ち、♥K、♠とプレイしてダミーからはハートをディスクード、Wは♥Qを勝つが、どうすることもできない。ディクレーラーは10でダミーの♠をディスクードすることができる。ではEがディクレーラーの♥Kをダックするようになるか? Wに♥Qで入った時にハートを犠牲とし、ハートの3巡目にディフェンダーのトランプがプロモートする。ディクレーラーは10を勝つためにハンドに取る必要がある。トランプを3回勝つことはできない。トランプを2回だけ打つと今度はWの♠10をつかまえることができないのである。

Bd: 6		NORTH	
DLR: E		♠ 109853	
VUL: E/W		♥ J10	
		♦ 9653	
		♣ 7	
WEST	---	EAST	AJ4
♥	AQ3	♥	K762
♦	K87	♦	A104
♣	J1096532	♣	AK9
		SOUTH	
		KQ762	
		9854	
		J2	
		Q8	

Open Room			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Kokish	Jason	Colker	Justin
3♣	5♣	DBL	2♣
6♣	All Pass		Pass

NS(ハケット兄弟)の勝ち。Wは正確なビッドを心がけるだけでは不十分である。バルネラビリティを考慮するとNSはどのレベルでもサクリファイスが有効。従って、最善のレベルまでビッドするより、アクションを買い取る方が重要な時もある。Wは先を考慮とスプリッターを使い、後でクラブに修正するという選択もあるが、まず低いレベルでビッドを押さえ、Nに最初から飛躍的や汗をかいたことになった。彼はスペードリードを勝ち、♣Jを出したがこれはホールド。♥Qでハンドに戻って♣Aをノックアウトしたが、スペードリターンを取った時点で、ハンドのプレイが4-2か5-1かをゲスする必要に迫られた。5-1の場合はダイヤモンドのフィネスが必要となる。結局はダイヤモンドをクラブでディスクードして事なきを得たが、Eが2枚目のハンドにフォローした時はさぞ胸をなでおろしたことだろう。自分で自分の首を絞めないためにも、♣Aを追い出す前に♥A、♥Qとプレイをするべきであった。

Bd: 8		NORTH	
DLR: W		♠ AK87	
VUL: None		♥ 9654	
		♦ AQ92	
		♣ ---	
WEST	643	EAST	5
♥	8	♥	AKQ107
♦	J543	♦	76
♣	AKJ82	♣	109543
		SOUTH	
		QJ1092	
		J32	
		108	
		Q76	

EWの一般的なスコアは5♣ダブル2ダウン。ディフェンダーはダイヤモンドでトリック、スペードで1トリック、ダイヤメンターがリード、ダイヤモンドをKに向けてプレイした時に、EはハンドをAを勝ってスペードリターン、ディクレーラーは♥Qを当てて10トリックを取り、何も不思議なブッシュとなった。Eはハートをダックする、クラブのハイカードを1枚キヤッシュするという選択があり、一方Wもスペードのエンカレッジは軽めにする、ハートでスミス・シングルナを使ってスペードの関心を否定する等の方法があった。いずれにせよ、双方のテーブルで大きなチャンスを選り抜いた。

Bd: 11		NORTH	
DLR: S		♠ KJ6	
VUL: None		♥ J94	
		♦ KQJ763	
		♣ 8	
WEST	85	EAST	Q43
♥	AQ1076	♥	K832
♦	A1042	♦	8
♣	76	♣	Q10942
		SOUTH	
		A10972	
		5	
		95	
		AKJ53	

Open Room			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Kokish	Jason	Colker	Justin
Pass	3NT	DBL	1NT
Pass	3NT	DBL	All Pass

EWは簡単に7♣(中国チームのリウ・サン)や7NT(山田チームの今倉・井野)をビッドできそうである。しかし、NSが参加して一気に飛び跳ねる時はそうは問題がおろさない。中村チームの平田・森村ペアは5♣までビッドしたが、日本ウイメンズチームが13IMPを勝ち、久富チームの久富・寺本ペアは6♣ダブルでコントラクトを買い取り、マイナス1100で7IMPを稼いだ。久富チームがゲラーチームの対戦成績は18-12となり、この7IMPが重要であったことを証明した。

Bd: 13		NORTH	
DLR: W		♠ J4	
VUL: Both		♥ AK3	
		♦ 104	
		♣ Q8652	
WEST	8732	EAST	65
♥	J765	♥	QJ1084
♦	Q5	♦	AJ973
♣	K97	♣	A10
		SOUTH	
		AKQ109	
		9	
		K862	
		J43	

Open Room			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Kokish	Jason	Colker	Justin
Pass	1NT!	DBL	1♣
2♥	DBL(1)	All Pass	
(1) 協力的ペナルティ・ダブル			

EWは再び2♥ダブルをプレイすることに。しかも13番ボードと同じトランプのホールテンである